

# 惑星科学ニュースレター 第32号

1999年9月1日  
日本惑星科学会  
事務局

## 逼迫した財政状況と学会費の値上げについて

財務専門委員長 渡邊誠一郎

総会でも説明しましたが、日本惑星科学会の財政状況はかなり厳しく、学会費の値上げを検討せざるを得ないと考えています。今後の学会のあり方を考えてご意見をいただければ幸いです。

### 1. 現在の財政状況

昨年度は、年度当初の繰越金が16万円しかなく、正会員数増加の鈍化と賛助会員の急減（最盛期の1/3）によって会費収入が減少したため、極度の緊縮型の財政運営となりました。具体的には、(1) 厳格な徴収によって会費納入率・滞納分回収率を高め、(2) 夏の学校補助金・IUGG準備分担金の支出を節約し、(3) 旧事務局の努力で徹底した経費削減による支出抑制をしました。さらに、秋季講演会がLOCの努力（会場費無料等）で黒字となったことや、会員名簿発行にスポンサーがついたこともあって、結果的には約70万円程の収支黒字が出すことができました。

今年度の財政状況は、(1) 正会員数増加の鈍化し、賛助会員がさらに減り、(2) 会費の事務局受付が無くなるため、会費納入率が低下する見込みで、(3) 事務局の分散化・一部委託によって事務必要経費が増大（+30万円）し、(4) 事務局分散化で徹底した経費削減を図るのが困難になると予測

されます。さらに、事務局分散化により一部の委員に無償の雑用が集中してしまうことや、学会の機能向上につながる新たな活動を起動する財政基盤が無い、といった問題もあります。当初予算では、当期実質収支差額（予備費分相殺した額）は42万7千円の赤字で、来年度までに何らかの対策が不可欠です。

### 2. 会員1名に要する経費

ここで、会員1人当りの平均経費（直接、会員に係るもののみ）を昨年度実績概算で見てもましよう。

#### I. 会員毎にかかる経費（つまり会員数を増やしても減らない経費）

学会事務センター会員業務	860
名簿管理	340
遊・星・人の郵送料	260
NL・請求書・名簿等郵送料	400
計	1860

#### II. 会員の頭割りで決まる経費（会員数増加で1人当りが減少する経費）

遊・星・人印刷製本費	2840
NL・名簿等印刷製本費	300
計	3140
総計	5000

これは学生会費（年額4000円）を上回っています。つまり、学生の皆さんは出血サービスを受けていることになり、こうした状況を維持するには、賛助会員数のある程度確保することが必要です。

当然、学会活動では上記の会員に直接係る経費以外にも事務局経費、学会事務センターの帳簿類出力費など間接経費、講演会事業費などの不可欠の出費があります。賛助会員口数が最盛期の1/3以下となってなお減少している現在、この学生会費の赤字状況を維持することはできません。

ただ、会費の値上げの際は、一般会員／学生会員の会費比率は現状に近い水準を維持することが望ましいと考えられます。

### 3. 今後の見通し

先日の総会での会長の活動方針の説明にもあったように、学会を取り巻く状況は大きく変わろうとしています。ここで明確にしなくてはいけないのは、会員が学会にどのようなサービスを求めているか、そのサービスを楽しむための対価はいくらかということです。インターネットの時代、学会業務、特に会員業務や情報提供のやり方は、大きく変えることができ、それによってサービスを向上させ、コストを削減することも可能です。しかし、そのためには将来のビジョンを明確にし、実現のための戦略を立て、それに裏打ちされた先行投資が不可欠です。

会員サービスは、一部会員の無償の努力で支えることはできず、会員全体が対価を払う形で行わなくてはなりません。したがって、必要な会員サービスを考え直し、コストパフォーマンスを高めるべく構造改革を議論する必要があります。

### 4. 当面の対応策の提案

以上の分析から、当面の対応策として次の提案を行います。

会費値上げ：来年度より一般会員会費は1500円アップして7500円、学生会員会費は1000円アップして5000円とする。これで、70万円程度の収入増となる。

- ・実質収支差額を均衡させる（40万円程度必要）。
- ・会員サービスのため遊・星・人の紙面充実を図る。
- ・学会のWEBサーバーの立ち上げ、会員向け情報提供などを検討する。
- ・会員サービスにつながる事務は、パートを雇いこなしてもらう（週1回で年間35万円程度まで）。

将来計画専門委員会で、関連学会との事務業務一括委託や、学会誌の電子ジャーナル化等の電子化促進などを議論する。

秋季講演会時の総会において、議論の上議決する予定です。

学会活動を今後のどのような方向に発展させるかを踏まえて、広く学会員のご意見をお寄せ下さい。

### ご意見送付先

財務専門委員長宛のご意見は、

渡邊誠一郎 名古屋大学 大学院理学研究科

FAX 052-789-3013

e-mail seicoro@eps.nagoya-u.ac.jp

をお願いします。

また、特に差し支えなければ、運営委員全体の下記メーリングリストにご意見をお流し下さい。

運営委員会ML [steering@jsps.toho-jc.ac.jp](mailto:steering@jsps.toho-jc.ac.jp)  
以上

## ◇第12回日本惑星科学会総会

第12回日本惑星科学会総会が1999年秋季講演会の期間中に下記の通り行われます。

会員の方々のご意見を直接反映できる場ですので是非ともご出席いただくようお願いします。

なお、ご出席いただけない場合には、総会委任状にご記入の上、出席される方にお預けいただくか11月10日（水）までに総務委員長宛にFAX（011-706-7142）または郵便にてご送付ください。

記

日時：11月14日（日） 16:00-17:00  
場所：東北大学工学部青葉記念会館

編集責任者：山本哲生

発行者：日本惑星科学会事務局

〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9  
学会センターC21

日本学会事務センター内 日本惑星科学会

## ◇教官の公募

関係機関の長  
関係各位

平成11年8月20日

記

### 教官の公募

神戸大学理学部地球惑星科学科  
学科長 中川 義次

この度、神戸大学理学部地球惑星科学科では、下記の要領で教官を公募致します。

つきましては、関係各位への周知あるいは適任者の推薦などにご高配賜りますようお願い申し上げます。

1. 職 種・人員：助手1名

2. 所 属：惑星科学大講座

3. 専門分野および内容：宇宙科学

宇宙における流体现象のコンピュータ・シミュレーションあるいは惑星系の形成過程に関する理論的研究および教育を行う。コンピュータやネットワークの維持・管理に積極的に参加してくれる人を望む。

4. 応募条件：博士の学位を有すること、あるいは平成12年3月末までに学位取得見込

みであること。

5. 着任時期：決定後できるだけ早い時期を希望

6. 提出書類：

(1) 履歴書

(2) 研究業績目録（著書，査読のある原著論文，  
査読のない原著論文，総説その他に区分）

(3) これまでの研究経過および研究業績の概要  
（2000字程度）

(4) 今後の教育・研究計画および抱負（1000字  
程度）

(5) コンピュータやネットワークに関する経験  
（1000字程度）

(6) 応募者について意見をうかがえる人2名の  
氏名と連絡先

(7) 主要論文の別刷またはコピー（5編以内）

7. 公募締切：平成11年10月29日（金）必着

8. その他：理学部地球惑星科学科は2大講座制  
（地球科学大講座，惑星科学大講座）  
をとっています。着任後は惑星科学大  
講座の宇宙科学教育研究分野に属し，  
他の分野のスタッフとも協力して広い  
視野から教育・研究・学科運営にあた  
っていただきます。

9. 書類提出先：〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1  
神戸大学理学部地球惑星科学科  
学科長 中川義次

E-mail: yoshi@whynot.phys.kobe-u.ac.jp

Phone: 078-803-5744, Fax: 078-803-5757

10. 問合わせ先：同 上 教授 松田卓也

E-mail: matsuda@jet.planet.sci.kobe-u.ac.jp

Phone: 078-803-5741, Fax: 078-803-5757

11. 封筒には「教官公募書類在中」と朱書きし，  
簡易書留で送付のこと。

12. 学科ホームページ：<http://shida.planet.sci.kobe-u.ac.jp>

13. 参考資料：

平成11年8月1日現在の理学部地球惑星科学科の  
教官構成は次の通りです。

教育研究分野	教授	助教授	助手
〔惑星科学大講座〕			
太陽系物理学	向井 正	中村昭子	
宇宙科学	松田卓也 中川義次		<<本公募>>
宇宙地球化学	中村 昇	[選考中]	
惑星物質科学	留岡和重		小島知子
非線形科学	郡司幸夫	小松崎民樹	
〔地球科学大講座〕			
地震学	石橋克彦	大内 徹	笥 楽磨
火山地質学	佐藤博明	鎌田桂子	
地殻テクトニクス	宮田隆夫		林 愛明
地球電磁気学	乙藤洋一郎	兵頭政幸 山口 覚 (講師)	
大気水圏科学	山中大学	岩山隆寛	